

立ち読み版



ガイナレ鳥取 代表取締役GM

おかの まさゆき

岡野 雅行 さん

1972年、神奈川県生まれ。1994年、Jリーグ・浦和レッドダイヤモンズ入団。1996年には11ゴールを挙げ、ベストイレブンとフェアプレー個人賞を受賞。1997年のワールドカップ・アジア予選で決勝ゴールを決め、日本代表をワールドカップ初出場に導いた。2013年、ガイナレ鳥取でのプレーを最後に現役引退。同年、同クラブのゼネラルマネージャー（GM）に就任。2017年、代表取締役GMに就任する。

【写真】 小野 祐佳

“野人・岡野”がリードする Jチームと地域振興

【取材・文】 原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、キャリアコンサルタント協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決まなさい」（徳間書店）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S BEFORE

「野人」と呼ばれ、サッカー日本代表をワールドカップ初出場に導くなど、記憶に残るプレイヤーとして名をはせた岡野さん。現在は、J3リーグ・ガイナレ鳥取のGM（ゼネラルマネージャー）として活躍している。スポーツを通じた地域振興は、各地で大きな効果を生み出している。

鳥取県という日本で最も人口規模の小さな県で、岡野さんがどのような活動をしているのか、聞いてみたい。



「野人が来る!」というギャップを生かす

原：ガイナレ鳥取のGMに就任して、8年になりますね。

岡野：GMはそのチームによって、いろいろな役割があると思いますが、僕の場合は何でも屋さんみたいな感じです。チームの広告塔という役割もありますし（笑）。鳥取県にはあまり大きな企業もなく、ガイナレ鳥取は母体もない中、本当に手づくりでやってきているチームなんです。それでもJリーグで戦っているというのは、大きな魅力だと思っています。

最後に現役だったチームがガイナレ鳥取だったので、そのご縁でGMを引き受けることになりました。塚野社長に頼まれて引き受ける

ことになったのですが、とりあえず自分ができることをやろうと思って、営業を中心に活動しています。体力には自信があるので、たとえば、広島に行く時はすべて車で移動しました。

最初の任務は資金集めでしたね。それと並行して、現場での仕事も全部やりました。監督を決めて、選手を集めなければならないので、そのために資金を集め、場合によってはクビも切らなければいけない。それはすごく嫌でしたね。

うちみたいなチームのGMは先ほど挙げたことに加えて、イベントにも出るし、とにかく全部やらなければいけないんです。だけど、それではとても体がもたないし、結果も出ないと思って、現場はだんだん任せるようになってきました。今、一番力を入れていることは、広告塔としての仕事です。鳥取という地域もアピールしつつ、ガイナレ鳥取の存在を全国の方に知ってもらうように取り組んでいます。

僕のキャラクターとしては、やっぱり“野人”っていうイメージがあると思うんです。アポイントをもらって訪問すると、社長さんや会長さんは「野人が来る!」と構えるんですが、「お時間を作っていただき、ありがとうございます」と、普通にご挨拶ただけで褒められるのです（笑）。営業では、そういったギャップで得している部分はあるかもしれません。

原：選手の時に思い描いていたGMの姿と、実際は違いましたか。

岡野：全然違います。こんなに大変だと思わな